

「オリンピック・パラリンピック教育推進校」

学校長 金子 正人

2021年が始まりました。本年も子どもたちのよりよい成長に向けて、職員一同全力で教育活動を行う所存です。保護者、地域、関係機関の皆様には引き続きご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

昨年の学校だより1月号を読み返すと、オリンピック・パラリンピックイヤーの開幕ということでその理念について書いていました。新型コロナウイルスの流行がなければ、きっと今頃はオリンピック・パラリンピックの余韻をかみしめながら、新しい年を迎えていたことでしょう。

本校は「オリンピック・パラリンピック教育推進校」に指定され様々な活動を行っています。推進校とは、スポーツ庁「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」のモデル校で、令和2年度横浜市では31の小・中・高・特別支援学校が選定されています。

オリパラ教育は、大会そのものへの興味関心の向上だけでなく、オリパラを題材としてスポーツの価値、国際・異文化、共生社会への理解を深めるとともに、規範意識を養うなど多面的な教育的価値を持つものとされています。本校のように日本人児童と外国人児童の多文化共生を推進する学校にとっては多様性の尊重を学ぶとてもよい機会となることでしょう。

昨年9月には5年生が「ゆるスポーツ体験」で運動に親しみ、自分たちで新たなスポーツを考案する学習をしました。この体験がもとになって運動会ではコロナ禍でも楽しめる新しい競技を考え出しました。12月には4年生が「ボッチャ体験」で老若男女障害の有無に関わらず楽しめるボッチャの魅力に触れ、パラリンピックへの関心を高めました。1月には「オリンピック・パラリンピアン学校訪問事業」でオリンピックをお招きして5・6年生が講演を聞き、実技指導を受ける予定です。さらに1月から2月にかけてはオリパラ半年前イベントである南区役所のライトアップ企画と連動した機運醸成の活動なども計画しています。

新型コロナウイルスは依然として収まる気配を見せず、自粛生活も感染予防対策も長期戦の構えです。私たちの生活様式も大きく変わりました。子どもたちの学習や生活にも影響が出ています。けれどもできないことを並べて嘆いてみても状況は変わりません。「こんな時代だからこそ」の知恵とアイデアで学校生活を楽しくし、逆転の発想で生活や社会をよりよくする新たな学びを築いていきたいと思えます。

コロナが一日も早く収束に向かい、日常生活が回復しオリンピック・パラリンピック東京大会が開催できることを願ってやみません。